

消化器内科

- 研修責任者名 消化器内科部長 榊原 充

- 概要

- ・ 早期胃癌・大腸癌・食道癌に対する内視鏡下治療では従来の粘膜切除術（EMR）より進んだ治療である粘膜剥離術（ESD）を開始して15年以上になりますが開腹手術をせずに早期胃癌・大腸癌・食道癌を治癒させることが可能となっています。
- ・ 肝癌の治療では局所治療に非常に有用な経皮的ラジオ波焼灼術（RFA）を平成14年より開始しておりすでに300人以上の患者様が治療を受けられています。
- ・ 肝臓癌の早期発見・精査には、平成30年度に増設した3.0テスラMRIやMDCT（平成31年度2台目増設）が非常に有用です。超音波学会認定の超音波技師が施行する腹部超音波検査（造影）などと組み合わせ肝臓癌の早期発見・治療に取り組んでいます。
- ・ 消化器内科・放射線診断科治療科・消化器外科は互いに連携し、毎週合同カンファレンスを開き、内視鏡治療・超音波下治療・血管内カテーテル治療・開腹・腹腔鏡下手術あるいは抗がん剤治療などあらゆる治療選択に対応しています。
- ・ 肝癌発生の抑制に重要なB型肝炎に対する核酸アナログ、C型肝炎に対するインターフェロンフリー（DAA）治療も多数施行しています。
- ・ 救急医療でも消化器内科関連疾患は多く、胆石発作や急性膵炎、上部消化管出血など多くの救急疾患に対応しています。
- ・ 内視鏡下に胃腫瘍や膵疾患などの穿刺検査・治療を可能にしてくれる超音波内視鏡（EUS/EUSFNA）や、小腸の腫瘍・出血の精査治療に役立つ小腸内視鏡も有し診療に役立っています。
- ・ 食道癌・胃癌の診断に非常に有用なNBI (Narrow Band Imaging) が可能な内視鏡システムを用いて、ますます癌診療に力をいれていきます。

- プログラムの特徴

八尾市立病院は地域がん診療連携拠点病院（国指定）であり、がん診療に総力を挙げて取り組んでいる。また、日本消化器病学会・日本消化器内視鏡学会・日本肝臓学会の専門医制度認定施設である。消化器病学会専門医・消化器内視鏡学会専門医・肝臓専門医を含む8名のスタッフ（専攻医1名含む）で、早期胃癌・大腸癌・食道癌・肝臓癌を含む、上部下部消化管疾患・肝胆道疾患を中心に診療にあたっている。

人口27万八尾市の中核病院であり、2次救急も担っており様々な消化器疾患を経験できる。充実したスタッフと設備を有する内視鏡センターにおける内視鏡治療に力をいれており、早期胃癌・大腸癌に対する切開剥離術を積極的に施行している。その他あらゆる内視鏡あるいは超音波下処置を習得できる。

慢性肝炎に対するインターフェロンフリー（DAA）治療から肝臓癌に対するラジオ波焼灼術といった肝臓癌の発生予防・治療には従来から熱心に取り組んでいる。

中規模病院の長所として、放射線科や消化器外科医師との交流が盛んで知識・技能の向上につながる。

大阪国際がんセンターや大阪急性期・総合医療センター・大阪大学などと連携しており更に高度専門的な研修も可能。

● 主な設備

完全フィルムレス・ペーパーレスの電子カルテシステム（研修、特に内視鏡・超音波・CT・MRIなどの画像をフル活用する消化器内科の研修には非常に有用です。）

内視鏡センター（上部下部消化管内視鏡室 3、透視設備付消化管内視鏡室 1、回復室、ミーティング室）、肝癌治療RFAは、Real-time Virtual Sonography (RVS”にて精密な治療を実施。

● 取得できる認定・専門医

内科学会専門医、消化器病学会専門医、消化器内視鏡学会専門医、肝臓学会専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本消化管学会認定医 等

● 主な症例数（2019年度）

上部消化管内視鏡 3,517件 下部消化管内視鏡 2,353件

早期胃癌ESD 64件 大腸ESD 22件 早期食道癌ESD 5件

EVL・EIS 30件 EUS・EUSFNA 40件

PEG 21件 EST・ERCP・ステント留置術・PTCD 206件

ラジオ波焼灼術 28件 肝生検 20件

● 指導医からのコメント 副院長 福井弘幸

消化器内科は各臨床科のなかで最も忙しい科のひとつです。しかし消化器疾患を診断し、その最適な治療方針を患者様に提示し実践するという重要な役割を担い、また早期胃癌・大腸癌・食道癌や肝癌などの治療までも行うやりがいのある診療科です。

2年間の前期研修を終え、医療の基礎的知識や技能は習得されているでしょう。これからは、医師としての今後の進むべき道を考え、またどのような専門的な分野に進みたいのかをよく考えてください。専門的知識や技能を有する臨床医を目指すのなら、また大学病院などでの臨床研究へ進む前にまず消化器内科的な臨床技術を身につけたいと決めたのなら本院消化器内科での後期研修を希望してください。

後期研修期間中に消化器内科では、上部下部消化管内視鏡・腹部超音波検査などの一般検査はもちろん一人で自信を持って施行できるように、ポリペクトミー・消化管疾患止血術・内視鏡下逆行性膵胆管造影乳頭切開術（ERCP・EST）・経皮経肝胆道ドレナージ（PTCD）・内視鏡下胆道ドレナージ（ERBD）またステント挿入術および超音波内視鏡・肝生検といった手技は指導医のもと自身で施行可能なように、内視鏡下切開剥離術（ESD）・超音波内視鏡下生検（FNA）やラジオ波焼灼術（RFA）などは助手として経験を積んで術者を目指せるようにトレーニングを積んでください。

また、論文や学術書を読んで勉強し学会発表することで専門的知識を習得し、前期研修医を指導するという異なった立場を自身の知識・技能の復習に役だてましょう。